

ヨハネの福音書 第6章 56節

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。」

婚宴の席での奇蹟から、幾度も弟子たちと食卓を囲んできた主イエスです。弟子たちのみならず、取税人や罪人、皮膚病の家でも席につき食事を共にしてきた主イエスです。大酒飲みの大食漢と揶揄されることもあった主イエスです。

食卓は体を支え、日々の生活を支える大事なところです。その場は、互いの様子を知る憩いのところでもあります。時には楽しいことが語られ、また、ある時には直面している困難を分かつところとなります。心身ともに養われる大切な場でもあります。いのちを育み、支えるところとなります。

食卓を囲んできた主イエスが、これまでとは異なった招きをしています。今までの食卓が無意味であったとは言いません。しかし、ここでは、わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む、という招きをします。これまでの食事では満たすことのできないことがあります。だから、わたしの肉、わたしの血を差し出す食卓に招きます。この招きを聞いた者のなかにはショックのあまり、つまずいた者もいます。十字架への招きはある者にはつまずきで、信じる者には救い。

2025年5月7日